

木更市制施行80周年記念事業実行委員会会議録

令和5年2月1日作成

会 議 名	第5回 木更津市制施行80周年記念事業実行委員会		
開 催 日	令和5年1月23日（月）	場 所	駅前庁舎 防災室・会議室
時 間	13時30分～15時00分まで		
出 席 者	実行委員会委員） 別紙名簿のとおり 部会等説明者） 別紙部会等説明者一覧のとおり 事務局） 企画部：水谷企画課長、影山企画課長補佐、平野主任主事		
議 題	(1) 事業報告について (2) 追加事業及び収支予算の補正について		
そ の 他	なし。		
配 付 資 料	会議次第 資料1 事業報告資料（式典部会） 資料2 事業報告資料（未来ビジョン部会） 資料3 事業報告資料（プロモーション部会） 資料4 事業報告資料（RUNイベント部会） 資料5 事業報告資料（きさらづコレクション部会） 資料6 事業報告資料（3Rイベント部会） 資料7 事業報告資料（木更津みなとぐちアートプロジェクト2022） 資料8 事業報告資料（チャレスポ in KISARAZU） 資料9 追加事業一覧 資料10 収支補正予算書（案）		
概 要	議題（1） 各事業の進捗状況について 【説 明】 1 記念式典 ●伊藤部会長説明 （資料1に沿って説明） 式典は令和4年11月3日、午前10時からかずさアカデミアホールを会場に開催した。出席者については、新型コロナウイルス感染症対策を施したうえで、実行委員会の皆様をはじめ、来賓27名、・受彰者179名、招待者37名の合計243名の方々にご出席いただいた。「パートナーシップの実現」のコンセプトのもと、市内小中学生の協力を得て、司会は中学生2名、開式・閉式の言葉は小学生に行っていた。 また、会場ロビーでは、お出迎えとお見送りの際、清川中学校音楽部と木更津第二中学校吹奏楽部による演奏を行っていた。 式典の中では、市政功労表彰、きさらづ未来ビジョンの提言、木更津第一小学校によるアトラクション「証城寺の狸ばやし」などを行い、所要時間は1時間30分ほどだった。 出席者記念品は、それぞれの受彰者の名をいれたオリジナルの式次第、市内の小中学生が未来に残したいものをテーマに描いた「きさらづパレット」をプリントした、再生材使用のマグカップやエコバック、市内福祉作業所が制作したお菓子を配付した。 いずれも、記念事業の3つのコンセプトに合致するよう企画したもの。詳細については、配布資料をご覧ください。 【質疑応答・意見等】 ○ 重城委員 記念品について、千葉県市議会議長会会長流山市の森議長が出席予定だったが、都合があり出席できなかった。後日記念品を受け取ったそうだが、この記念品の中で、式次第に自分の名前が入っていて、非常に感銘を受けたということで私の方にわざわざ連絡をいただいた。これは非常に良い点だったと思う。 ただ、もう一点、記念品を入れるエコバッグが白い布のものであったことについて		

てだが、個人的にはこれが少し気になっており、戦後の納骨の袋を連想してしまうような感じを受けた。次は90周年だと思うが、この点など踏まえ検討いただけると良いのではないかと。(意見・感想)

→ 記念品の袋については、次回、記念式典もあるかと思うので、参考にさせていただく。

○ 石村委員

中学生の司会と小学生の開式の言葉と閉式の言葉の指導で関わらせていただいたが、本当に申し上げることなくらい参加される子たちはみんな素晴らしく、この子たちがこの木更津でどんどん育っていったら素晴らしいなと感じた。

また、式典において、きさぽんによるお誕生日をお祝いする演出はとても子どもたちからも好評だった。(感想)

2 未来ビジョン部会

● 石井部会長説明

(資料2に沿って説明)

未来ビジョン部会では、20年後、100周年を迎える木更津に「住みたい」、「住み続けたい」、「働きたい」、「訪れたい」を実感していただくため、まちの未来像とその実現に向けた道筋を描き、市民とともに共有することにより、持続可能なまちづくりを目指そうとする取組として、「未来の木更津市がどのようなまちであってほしいか」を市民の皆様と共に考える、ワークショップ「きさらづ未来会議」を開催した。

「きさらづ未来会議」については、令和4年5月から8月にかけて、市内在住・在勤・在学の高校生から45歳までの42名の方に参加いただき、全4回にわたってワークショップを開催し、その中で策定した「きさらづ未来ビジョン」提言書を11月3日の記念式典において、市へ提出した。

策定した「きさらづ未来ビジョン」は市民の皆さまとともに共有する取組として、未来会議メンバーの方々にご協力いただき、記念誌「K I S A R A Z U S t o r y」における、インタビューの掲載や記念動画「未来編」への出演、記念式典と同日に開催された「オーガニックシティフェスティバル2022」において、市長とのトークショーとして、未来会議でのエピソードを語っていただいたほか、メンバーの伊シワタ ケイタ氏と松本 佳奈氏が記念ソングとして制作された楽曲「星を見にいこう」の発表が行われた。

また、きさらづ未来会議開催期間において、ワークショップを補完するツールとして試験的に「みらい会議版L i q l i d (リクリッド)」を活用した。リクリッドは、「きさらづ未来ビジョン」のメンバーがワークショップ期間中に挙げたアイデアや、やり取りなどの経過が確認できる掲示板のような仕様となっている。このリクリッドを活用し、未来ビジョンを市民の方とさらに共有していくため、リクリッドをリニューアルし、インターネット上で公開している。リニューアル内容としては、資料の3ページ目に記載されている7つの未来ビジョンのテーマとそれに対応する「問いかけ」を新たに掲載した。

市民の皆様には、それぞれのテーマへの「問いかけ」に対して、どう思うか自由に議論をしていただきたいと考えている。議論の内容を随時確認させていただき、皆様が感じている本市に対するイメージやアイデアなどを分析することで、木更津市の施策に反映し、20年後を見据えたまちづくりにつなげていきたいと考えている。委員の皆様にも、配布資料のQRコードからリニューアル版リクリッドをご覧いただき、是非参加いただきたい。

【質疑応答・意見等】

○ 會澤委員

未来会議のメンバーとして自分も参加し、高校生や大学生などの10代の方と直接話すことができたが、皆さん本気で木更津のことについて、未来のことについて深く考えており、100周年となる20年後がこれからどうなるのかとても楽しみに感じることができた。(意見・感想)

3 プロモーション部会

● 重城部会長説明

(資料3に沿って説明)

(1) 記念誌等制作事業について、

① 記念きさポン・ロゴマークについて

本市マスコットキャラクターのきさポンを使った80周年記念ロゴマークを制作し、市ホームページや記念事業のチラシ等に掲載した。ロゴマークのほか、記念デザインとして「お祝いきさポン」と「応援きさポン」を制作するとともに、きさポンの着ぐるみ用のオリジナルタスキも作成し、80周年記念イベントで活用した。

② 記念誌制作について

市のこれまでの歩みや魅力等を掲載して制作し、市制施行80周年記念式典の出席者にお配りしたほか、記念イベントや市のPRイベントなどで配布した。更に多くの方に手に取っていただけるようJR木更津駅の協力により、木更津駅改札付近に記念誌スタンドを設置した。

③ 記念品の制作について

式典部会にて制作した「きさらづパレット」のデザインを使用し、環境に配慮した素材でエコバッグ、マグカップ、クリアファイルを制作した。80周年記念事業にご協力いただいた方々や、記念イベントに参加した方などに配布した。

その他の記念品として、式典や記念事業に協力してくれた子どもたちにきさポンのぬいぐるみを配付した。

④ 市勢要覧について

木更津市と株式会社ゼンリンで協働発行した「暮らしの便利帳2022」に市制施行80周年特集ページを増設した。10月に市内全戸へ配布し、現在は市民課窓口で転入者にお渡ししている。

(2) 記念動画制作及び情報発信事業について

① 記念動画制作について

「木更津のこれまでの歩みとこれからを結ぶ」をテーマに、過去編・現在編・未来編の三部構成で動画を制作し、記念式典で放映した。現在は市公式YouTubeチャンネル「きさらづプロモチャンネル」で公開中である。また、市内各公民館のデジタルサイネージでは、ショートバージョンの動画を放映中である。

② 記念ソングについて

木更津ふるさと応援団であり、シンガーソングライターのイシワタ ケイタ氏、松本 佳奈氏にご協力いただき、80周年を記念した市のイメージソング「星を見に行こう」を制作した。記念動画の挿入歌として使用したほか、11月3日のオーガニックシティフェスティバルにおいても、二人に披露していただいた。

(3) その他の取組

日本郵便株式会社と連携し、市制施行80周年を記念したオリジナルフレーム切手を作成した。

切手には、市を代表する観光スポットやきさポンの写真などを使用し、きさらづの魅力が詰まったデザインとなっており、10月3日から市内をはじめ南房総地域の郵便局で販売している。また、11月3日の記念式典においても、功労表彰受賞者への記念品の一つとして使用した。

【質疑応答・意見等】

○ 田中会長

記念誌はまだ配布できる余裕はあるのか。

→ 現在の在庫としては300部程度だが、増刷を考えている。

○ 滝口委員

記念切手の在庫としてはどれほどあるのか。

→ 市内の郵便局については完売している。他の南房総地域での在庫状況については把握できていない。(令和5年2月1日現在、南房総地域販売分も完売。「ネットで郵便局(日本郵便の通販サイト)」での取り寄せ分のみ、在庫わずかにありの状況。)

4 RUNイベント部会

● 鶴岡部会長説明

(資料4に沿って説明)

市制施行80年を迎え、市がこれまで積み上げてきた「スポーツを通じたまちづくり」を、さらなる飛躍の基盤とするため、地域の様々な主体とのパートナーシップを図りながら、スポーツを通じた地域ブランドの向上をめざすべく、毎年開催している「木更津ブルーベリーRUN」に合わせ、令和4年11月20日にポルシェエクスペリエンスセンター東京にてRUNイベントを開催した。

ブルーベリーランには、187チーム1,287人の方が参加した。記念事業のイベントについて、吉本興業の芸人でもあるガレッジセールのゴリ氏など8名の芸人でチームを組んでブルーベリーRUNへ参加し、開会式及び閉会式でのトークや大会途中の参加者インタビューなど、競技以外でも大いに会場を沸かせた。テレビ番組とのタイアップとして、市民ランナーに知名度のあるテレビ番組、NHKBS1の「ランスマ倶楽部」に出演者の派遣を依頼し、森脇健児氏やチャンカワイ氏など4人の芸能人が参加した。なお、昨年12月に同番組内でブルーベリーRUN参加の様子が放送された。

【イベント映像視聴】

本イベントの成果としては、実施目的でもある「スポーツを通じた地域ブランドの向上」を、テレビ番組での放送や本イベントに参加した芸能人ランナーによるSNSでの発信を通じ、「木更津市」や「木更津ブルーベリーRUN」の知名度、ブランド力の向上に寄与できたと考えている。

今後、今回の成果をもとに、本市のスポーツを通じた地域ブランドを一層向上できるよう、様々な主体とパートナーシップをとりながら、各種スポーツ事業に引き続き取り組んでいく。

【質疑応答・意見等】

特になし

5 きさらづコレクション部会

● 秋元部会長説明

(資料5に沿って説明)

共生社会の実現とふるさと木更津への愛着、未来に向けた思いを共有するため、11月3日市民の日、鳥居崎海浜公園にて、「きさらづコレクション2022」を開催した。

当日は、木更津東高校の施設を借用し、朝8時からモデル・MCのヘアメイク及び衣装の着替えを行った。ボランティアで参加してくださったプロのヘアメイク指導のもと、木更津東高校の生徒達が、それぞれ担当のモデル・MCのヘアメイクや衣装の着付けを行った。その後の事前リハーサルも概ね予定どおり進み、オープニングアクトとして、ダンスとバレエによるステージ発表を行った。開会式では、渡辺市長より挨拶をいただき、きさらづのまちづくりに対する市長の思いや、市制施行100周年に向けたビジョンについてお伺いできた。続いて、木更津東高校の生徒と小中学生のキッズMCによって、ファッションショーがスタートした。キッズMCが着用しているきさらづパレットのTシャツは、スタッフTシャツとして、スタッフ全員が着用した。ファッションショーでは30名のモデルが1人ずつステージに登場し、約1分間の持ち時間の中で思い思いのポーズを決めて、自分を精一杯表現していた。また、音楽担当として、拓殖大学紅陵高校の吹奏学部のみなさんにご協力いただいた。吹奏楽の生演奏で会場を華やかに盛り上げた。

【当日のイベントの映像視聴】

ファッションショー終了後、ゲストのはるな愛氏によるスペシャルライブを行った。はるな愛氏の衣装は、君津特別支援学校の子どもたちの作品からヒントを得てテンボデザイン事務所の鶴田氏がデザインし、作成したもの。

渡辺市長、はるな愛氏、テンボデザイン事務所の鶴田氏によるトークショーを行い、「未来の木更津に残したいもの」というテーマの中で、共生社会についても触れ、ジェンダーレスの代表的存在とも言えるゲストのはるな愛氏から、貴重な体験談をお伺いすることができた。

会場には延べ2000人あまりが来場し、大盛況のうちに幕を閉じ、出演者・スタッフ・来場者ともに怪我や事故等大きなトラブルなく、撤収作業も概ね時間通り進んだ。

当日は新聞社やテレビ局の取材も入り、読売新聞や朝日新聞への掲載及び千葉テレビ・ジェイコムでファッションショーの様子や出演者のインタビューなどが放送された。また、当日の様子はYouTubeでご覧いただけるため、資料に記載されているQRコードからご覧いただきたい。

ファッションショー終了後のモデルMCを対象としたアンケートでは、「市制90周年、100周年の時にも、木更津を盛り上げていきたい。」「木更津の歴史や魅力を、もっと多くの人に知ってもらうために何ができるのかを考えていきたい。」「自分に自信が持てるようになった。」「この経験を生かし、学校生活などいろいろなことをがんばっていきたい。」等の言葉が寄せられ、子どもたちの木更津に対する愛着の深まりや、共生社会に対する意識の向上、自己肯定感の醸成に繋がったと考えている。

また、ファッションショー当日までの事前の取り組みの中で、キッズモデル・MCと木更津東高校生徒とのたくさんのふれあいの場が生まれ、小中高生のつながりを作るきっかけとなったとともに、衣装をデザイン・作成してくれた高校生に憧れを抱いた小中学生も多く見られ、キャリア教育の一助にもなったと感じている。

なお、来月にモデル30人の衣装や当日の数々の写真など、きさらづコレクション2022の衣装・写真展の開催を計画している。

展示会の企画・運営等については、令和4年度新規採用職員の研修の一環として、職員課主導のもと準備を進めていただいているところである。詳細は職員課から説明させていただきます。

【質疑応答・意見等】

特になし

7 3Rイベント部会

● 植野部会長説明

(資料6に沿って説明)

市制施行100周年を見据えて将来を担う子どもたちが、3Rや身近な環境問題について自ら考えるきっかけとなるよう、令和5年1月15日に木更津市民総合福祉会館でキッズリサイクルデイを開催した。

実施内容については、「売る」のも「買う」のもすべて子どもたちだけで行うフリーマーケット「キッズフリマ」と、環境マークや身近なプラスチックごみから、海のみらい・木更津のみらいについて学習する環境セミナーを実施した。

(1) キッズフリマについて

出店者は小学3～6年生を対象とした事前申し込み制にし、28ブースの出店があった。開催時間は11時～12時30分、当日の来場者数は170人のうち、買いものにきた方が120人、出店者が50人であった。なお、この来場者数は子どものみの数である。

来場者からの感想を一部申し上げます

- ・自分が必要ではなくなったものを喜んでくれたことはとてもいいことだと思った。
- ・商品を気に入ってくれた子がいっぱいいたのですごくうれしかった。
- ・買ってもらって大切に使ってもらえた。

・売ることは大変で工夫するのが難しかった。

実施後の買い物来場者のアンケート結果を一部申し上げると、
「3Rについて考えるきっかけになりましたか。」との質問に対しては
「はい」と回答した方は29人（96.7%）
「いいえ」と回答した方は1人（3.3%）

「キッズフリマの体験を通して、これから普段の生活の中で、3Rについて取り組んでみたいことを教えてください。」との質問に対しては、

- ・不要なものや不要になったものは捨てずにリサイクル、リユースする
- ・エコバッグを使用する
- ・物は大切に使い、再利用すること

「今後もキッズフリマに参加したいですか。」との質問に対しては
「参加したい」と回答した方は29人（96.7%）
「参加したくない」と回答した方は0人（0%）
「未記入」は1人（3.3%）

保護者の方からは

- ・大人が参加できないというルールがおもしろかった。
- ・子供が一人で考えて、買い物ができていたので意外であった。
- ・子供たちが自由に、自分で考えて買い物をしている姿に感動した。また、参加したい。
- ・いつも親といて、自分の判断で行動することがないので、良い機会だと思った。との意見があった。

なお、収支感覚を養っていただくために設定した1店舗あたり300円の出店料、合計8千400円については、全額「ちば環境再生基金」へ寄付させていただく予定である。

（2）環境セミナーについて

NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会から理事長 吉田 昌宏氏、理事 佐藤 ミヤ子氏を講師に迎え、参加した小学生が環境マークや身近なプラスチックごみから、海の未来・木更津の未来について学習した。参加者は、5年生1人、6年生5人の計6人だった。

参加者のアンケート結果としては、

「セミナーに参加して身近な環境問題について理解できましたか。」との質問に対し、理解できた：6人 少し理解できた：0人 全く理解できなかった：0人

「セミナーで勉強になったことやこれからやってみたい取り組みがあったら教えてください。」との質問に対し

- ・3Rを心掛ける、ごみ拾い、正しいごみの分別
- ・SDGsや3Rを心掛けて、自然や地球に優しくする
- ・SDGsや環境のことがわかったし勉強になった
- ・地球の環境のことや問題になっていることがわかった
- ・友達と何ができるか考えあい実行して生活につなげていきたいです
- ・分別することは大事なこと

全体として大きなトラブルはなく、キッズフリマについては、予想以上の来場があり、常にお買い物エリアには買い物客がいる状況であり、アンケート結果からも、「子どもたちが3Rについて自ら考えるきっかけとするイベント」という開催目的は達成できた。また、環境セミナーについては、参加者数は多くなかったが、アンケート結果から、参加した子どもたちにとって身近な環境問題について考えるきっかけとなる有意義なセミナーとして開催できた。

【質疑応答・意見等】

○ 吉田委員

キッズフリマは大変好評であったが、セミナーの名前が堅いせいか、予想に反して30名の枠の中で9人の応募となっていた。年明けの時期的なものもあったかと思うが、人を集めるイベントとなると、今回各学校へ呼びかけなど行ったりしたが、集客の工夫が必要になるなど感じた。このイベントだけでなく、他の環境の啓発イベントなど行っているが、なかなか集まりにくいというところもあるので、地道にやっていく必要があると感じた。(意見・感想)

7 クラウドファンディング

● 石渡職員課長説明

新規採用職員52名は4つの係に分かれて、クラウドファンディングの運営係、返礼品係、広報デジタル係、広報紙媒体係として活動した。

クラウドファンディングは、ふるさとチョイスが運営しているガバメントクラウドファンディングを使用し、9月15日から11月30日に実施した。

返礼品は、前回の実行委員会で説明したオリジナルエコバッグ・ファッションショーペアチケット・通常のふるさと納税で使用している返礼品の他、第2弾としてオリジナルブックマークを1口3千円で用意した。オリジナルブックマークは木更津東高校の生徒がモデルの衣装を作成する際に発生した布の端切れを利用し、新規採用職員がハンドメイドで作成したもの。本来であれば破棄されてしまうものを活用し、SDGsにも寄与した品目となった。

クラウドファンディングの最終結果としては、131人にご支援いただき、144万5千円を集めることができた。

現在、市役所職員は、様々な課題に対して臨機応変に対応できることが求められており、新規採用職員がクラウドファンディングという新たな試みを実施したことで、これからの木更津市を担う若手職員がノウハウを学べた。

さらに、市制施行80周年記念事業に係ることで、新規採用職員が行政運営の担い手の一人であるという責任感を持つこと、自主的かつ積極的に自ら考え、行動することで「やりがい」や「他者との関わりの重要性」を実感しながら協調性・連帯感を育むことができた。

【質疑応答・意見等】

特になし

8 木更津みなとぐちアートプロジェクト2022

● 小高文化課長説明

(資料7に沿って説明)

このプロジェクトは、木更津の未来を育むアートプロジェクトで、子どもたちと現代アートのアーティストが一体となり、協働でチャレンジする「出前ワークショップ」と、その成果を各アーティストの作品とともに木更津駅みなと口周辺で展示し、発表する「みなとぐちART WEEK」で構成し、実施した。

(1) 出前ワークショップ

6月から11月にかけて、「アートによる次世代の育成及びシビックプライドの醸成」をテーマに、児童・生徒と参加アーティストが共に創作活動を行うワークショップを実施した。実施校や日程については、配布資料(資料7 P1)のとおり。参加校10校で、790人の児童・生徒が参加した。このほか、木更津高校の美術コースの教師の指導のもと、同コースの生徒によるワークショップを実施し、イベントに参加した。普段の授業では体験できないことで、子どもたちも楽しんで取り組んでおり、各学校からも好評であった。

(2) 「みなとぐちART WEEK」

児童・生徒が出前ワークショップで創作した作品と参加アーティストが自ら創作した作品の展示会を実施した。令和4年11月17日から12月4日にかけての18日間で行い、展示会場は木更津駅みなと口から木更津港にかけての

15箇所で、来場者総数は1万57人だった。展示会場は木更津駅西口の八剱八幡神社・證誠寺などの寺社、国の登録有形文化財に指定されているヤマニ綱島商店、明治元年の創業当時の面影を残す紅雲堂書店などで、多くの方に来場していただき、現代アートと「みなとまち木更津」のもつ歴史や文化、地域資源に触れてもらい、文化・芸術的な価値を創造する機会となった。

また、期間中は参加アーティストによる、一般向けのワークショップやギャラリートーク、ダンスパフォーマンスなどのイベントを実施し、「みなとぐちART WEEK」を盛り上げた。

【質疑応答・意見等】

特になし

9 チャレスポ in KISARAZU

● 阿津スポーツ推進課長説明

(資料8に沿って説明)

市制施行80周年を記念し、「初挑戦」をキーワードに、主にこれからスポーツを始めたいと思っている小学生とその保護者を対象に、各種スポーツを体験してもらうイベント「チャレスポ in KISARAZU」を昨年12月10日、11日に開催した。スポーツに「チャレンジ」する機会と楽しむ場を提供し、子どもたちにスポーツをする楽しさや喜びを知ってもらうことで、スポーツ好きの子どもを増やし、地域のスポーツ活動の促進を図るとともに、地元スポーツ関係団体等との連携や市民同士の交流を図り、スポーツを通じたまちづくりを進めることを目的に実施した。また、オリンピック種目やパラスポーツの体験等を取り入れることにより、市民のスポーツへの関心を高めることも併せて目指した。イベントは江川にあるオーエンス陸上競技場や市民体育館などで開催し、非常に多くの方に参加いただいた。

イベントの概要としては、市内体育施設を使って、子どもたちがスポーツを始めるきっかけとなり、継続して取り組めるような、親子参加型のスポーツ体験教室を企画いただいた。事前申し込み・親子2名1組で募集し、当日は各教室、合計272組(544名)が参加した。3×3やトライアスロンなど、普段体験できない教室も開催し、多くの親子連れに興味をもっていただけた。

そのほか、事前申込なしに当日誰でも参加できる競技用車いす体験、ボッチャの「パラスポーツ体験会」、体力測定会を実施し、競技スポーツに限らず体を動かすことを楽しめるようなイベントとなった。陸上教室、トライアスロン教室には世界レベルのアスリートを講師として招き、子どもたちはトップアスリートのパフォーマンスを間近で体感でき、有意義な教室として実施できた。

本イベントの成果として、市スポーツ協会所属団体や日本製鉄かずさマジックなど地域の各種団体とパートナーシップを図りながら開催することができた。

参加者からは「楽しかった」、「また参加したい」など多くの声を頂き、子どもたちは自身が希望していたスポーツを初めて体験し、木更津の子どもたちがスポーツを始めるきっかけづくりに寄与できたと感じている。

今後も継続して取り組めるようなイベントを実施し、競技種目や内容に工夫を凝らし、スポーツ好きな子どもを増やし、引き続き地域のスポーツ活動の促進を図っていく。

【質疑応答・意見等】

特になし

議題(2) 追加事業及び収支予算の補正について

● 水谷企画課長より説明

(資料9に沿って説明)

追加事業は、1番の「記念事業総集編動画」から5番の「きさコレ回想ギャラリー」までの5事業を追加し実施する計画としている。それぞれの事業概要は、担当する部会より説明するが、事務局にて担当する「記念事業総集編動画」について説明させていただく。

	・ 記念事業総集編動画 今回の８０周年事業で多種多様なイベントや事業が実施され、８０周年を盛大に盛り上げるものとなった。８０周年記念事業の取組方針として掲げている３つのコンセプトのもと「これまで」と「これから」を結ぶ節目の年として、各事業を展開してきた。これらのイベントを今後につなげられるよう、引き続き周知活動を行っていく必要があると考え、各イベントの記録映像を元に記念事業を総括するハイライト動画を作成し、周年事業終了後も、どのような催しを行ったのか、全体を振り返ることができるものとして、市民の方へ周知ができればと考えている。動画は２月下旬に完成予定であり、各公民館・市のデジタルサイネージ・ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルなどをはじめとするＳＮＳで発信していくことを考えている。 ● プロモーション部会 重城部会長より説明 ・ 広報きさらづ記念事業振り返り号 ８０周年記念事業を振り返り、市民の皆さまに様々な事業を実施してきたことをお知らせするものとして、広報きさらづ３月号に折込し、併せて発行するものである。 ・ 記念誌の増刷 当初５千部制作した記念誌「ＫＩＳＡＲＡＺＵ Ｓｔｏｒｙ」だが、記念式典や記念事業での配布のほか、海ほたる・ＪＲ木更津駅などの市内施設に配架したところ、大変好評をいただき、在庫が既に３００部を切っている状況である。市内外の方々に多くお届けできるように増刷を行うものである。 ・ 記念ソング楽譜作成 記念ソング「星を見にいこう」を今後、小中学生をはじめ、市民の方々が合唱や演奏を行うなど、広く活用していただけるよう楽譜として書き起こすもの。 ● 職員課 石渡課長より説明 （職員課はきさらづコレクション部会員として本事業を担当） ・ きさらづコレクション回想ギャラリー 「ＫＩＳＡＲＡＺＵ ＣＯＬＬＥＣＴＩＯＮ ２０２２」は、共生社会の実現とふるさと木更津への愛着と未来に向けた思いを共有するため、１１月３日に開催された。その感動を再び市民の皆様と共有していただき、木更津市の明るい未来を感じていただきたいという思いから、「ＫＩＳＡＲＡＺＵ ＣＯＬＬＥＣＴＩＯＮ ２０２２」の集大成として展示会を開催することとなった。 この「きさらづコレクション 展示会」の企画、運営はクラウドファンディングに引き続き、新規採用職員で実施する。 先ほどのクラウドファンディングの際にもご説明させていただいたが、市制施行８０周年記念事業に新規採用職員が関わることで、新規採用職員が行政運営の担い手の一人であるという責任感を持つこと、自主的かつ積極的に自ら考え、行動することで「やりがい」や「他者との関わり的重要性」を実感しながら協調性・連帯感を育むことができるよう企画している。 新規採用職員は、この展示会のテーマを「百花繚乱～未来ある子どもたちが作り上げる八色の虹～」とした。例えば、虹は７色であるという固定概念をなくすように、未来へ向けて多様性を大切にしようという願いを込めた。 新規採用職員は展示会の調整等を行う企画係をはじめ、ワークショップ係、広報デジタル係、広報紙媒体係の４つの係に分かれてそれぞれ活動している。 展示会については、２月１８日に１０時から２１時までイオンモール木更津サウスアトリウムで開催する。 内容としては、「ＫＩＳＡＲＡＺＵ ＣＯＬＬＥＣＴＩＯＮ ２０２２」にてモデルの子供たちが、実際に着用した衣装３０着及び当日の写真等の展示、当日の動画や衣装を製作した木更津東高等学校の生徒及び運営側のコメント動画の映写、モデルが着用した衣装を製作する際に発生した端切れを使用した、しおりづくりのワークショップ、「tenbo」鶴田氏、木更津東高等学校の生徒、市の職員によるトークショーを予定している。 動画の映写については、当日の映像の他、衣装を制作した木更津東高校の生
--	---

	徒のコメントなどを流す予定である ワークショップについては、クラウドファンディングの返礼品第2弾で作成したようなオリジナルブックマークをお客様が自分で作っていただくような内容となっている。 トークショーについては、テンポデザイナーの鶴田氏、木更津東高校の生徒、新規採用職員が登壇し、14時15分から30分程度開催する。 本イベントの広報活動について、クラウドファンディング実施の際に立ち上げたツイッターとインスタグラムを引き続き活用していく。多くの方にフォローいただけるよう随時更新していく。 また、市公式ホームページや海ほたる、公民館、西口バス停のデジタルサイネージに1月下旬から掲載予定である。 ポスターも新規採用職員が作成し、12月中に市内小中学校、公民館、うまぐたの里などに配付し、掲示している。 その他、2月14日にかずさFMおっぺせ木更津への出演、1月24日に木更津市の定例記者会見に出席し、展示会のPRを行う。 ● 水谷企画課長より説明 (資料10に沿って説明) ・ 補正予算について 今回の補正については、ご説明申し上げた追加事業を実施するにあたり、予算を補正するもの。 収入の部、木更津市からの委託金174万5千円を増額している。内訳としては、昨年11月に君津都市建設業協同組合様から80周年記念事業への活用を目的に30万円のご寄附を頂いた。また、先ほど職員課から説明のあったとおり、144万5千円の寄附金をいただいたことにより、合算して175万5千円を増額しようとするもの。 支出の部として、運営費、記念事業改装事業費の60万円、先ほど私から説明した、アーカイブ、ハイライト版の動画を編集し作成する経費として増額しようとするもの。事業費の(3)プロモーション部会費、記念誌の制作経費として、記念誌増刷の30万円を要することになる。記念品製作が予算の執行残を見込んでいたため、これを9万円減額するような形で相殺、計21万円を増額しようとするもの。記念動画制作及び情報発信事業費については、広報きさらづの臨時号の発行経費として72万円。記念ソングの楽譜の制作費として9万円、合わせて80万円を増額しようとするもの。(6)の木更津コレクション部会費については、職員課から説明のあった振り返りイベント、新規採用職員による参加者向けのワークショップを同時開催する経費として、40万円を増額しようとするもの。収入の部と支出の部の差額27万5千円について、(1)の式典部会費の予算執行残となる部分を予算流用という形で補正させていただくもの。 合計で174万5千円それぞれ増額し、補正後の予算額3674万5千円の補正をしたいと考えている。 【質疑応答・意見等】 ○ 會澤委員 きさらづコレクション回想ギャラリーについて、モニターにインタビューを流すとのことであるが、シティプロモーション課で木更津市の番組「オーガニックシティ木更津」で、1年間きさコレを追っていった映像があると思うので、良ければそういったものも流せると良いかと考える。(意見) → イベントとしては10時から21時までと長時間のイベントとなる。再生する映像はシティプロモーション課と協議して、できるだけ多くの映像を集め、当日イベントに来ることができなかった人に向けても発信できるような映像を選定している。 【審議結果】 原案のとおり承認
--	--

	【全体を通して質疑応答・意見等】 ○ 重城委員 今回の報告にはなかったが、議会事務局では令和4年7月1日にこども議会というものを実施した。高柳小学校6年生1組、2組、実際に児童が、議長役、執行部の役、議員の役に分かれ、2回に分けて行った。これについて、経費は発生していない。市の議会事務局職員の労をねぎらい、ご報告させていただく。 → 今回は実行委員会実施事業と一部の市の事業の報告であったが、最後の実行委員会は、他の行事についてもお報告をさせていただいたうえで、決算に向かいたいと考えている。 (事務局より) ・次回実行委員会について 令和5年3月24日(金) 13:30~15:00(予定)
--	---